



新潟県 新潟県酒造組合

『世界的なSakeの銘醸地Niigataを目指す』

【主な品目】

清酒(日本酒)

【主な輸出先国・地域】

アメリカ、韓国、香港・マカオ 等

【輸出取組の概要】

- ◆ GFP事業(2021-)により、アメリカ、フランス、台湾を対象としたニーズ調査等を実施。
- ◆ 英語版PVやレク資料制作、県内在住外国人を招いたペアリング、各種研修会等を実施。
- ◆ 関係団体と協力してフランスでのイベント(サロンドュサケ)への参加や英国での新潟フェア開催に取り組む。

【輸出実績】 (平成3年度より輸出開始) (注)統計上遡及できる範囲

| | 輸出額(千円) | 輸出量(e) | 出荷時期 |
|-------|-----------|-----------|------|
| 令和4年度 | 4,101,000 | 3,100,000 | 通年 |
| 令和3年度 | 3,214,420 | 2,563,333 | |
| 令和2年度 | 1,862,198 | 1,679,169 | |

新潟大学日本酒学センター

産官学の連携により、2018年に開設された同センターは、全学問領域を網羅した講義、講義録の発刊、博士課程の開設、業界向けセミナーの実施など多彩な活動を展開している。さらに、ボルドー大学やカリフォルニア大学デービス校と連携協定を結び、世界初の日本酒学の確立に取り組んでいる。本年も両大学から関係者が訪れた。

【取り組む際に生じた課題】

- ・ 伝統や文化に裏付けされた新潟清酒の紹介や現地料理とのペアリングを通じた浸透が道半ばである。
- ・ 蔵元によっては、輸出のノウハウ取得やルート開拓が十分できていない。

【生じた課題への対応】

- ・ コロナ感染症がほぼ収束したことを受けて、様々な機会(酒の陣、Miss SAKE新潟大会等)を利用して新潟清酒のPRを図る。
- ・ 国、県、市町村、JETRO等と連携し、個々の蔵元の輸出取組支援を図る。

【対応の結果】

- ・ 円安や対日感情の好転等もあり、コロナ禍の下でも新潟清酒の輸出は増加し続け、昨年は3000klの大台を超えたが、今年はやや踊り場状態にある。

【今後の課題・展望】

- ・ 本県を含む10都県の清酒については、中国が輸入規制を継続している。
- ・ インバウンドが解禁されたものの、地方ではツアー客の回復が遅く、外国人向けの直接的訴求の機会がまだ少ない。
- ・ 円安傾向は輸出にはプラスだが、ウクライナ侵攻や国際的な資源高でコストも増加しており、国内消費の長期低落傾向と相俟って経営環境は依然厳しい。

【活用した支援・施策】 令和3、4、5年度GFPグローバル産地づくり推進事業
県消費喚起・需要拡大プロジェクト応援事業等

【ウェブサイト】 <https://www.niigata-sake.or.jp/>

【連絡先】 担当者名:坂井、鎌田、TEL:025-229-1218



にいがた酒の陣2024
(R5.3.11-12)



パリ・サロンドュサケ
(R5.9.30-10.2)